

【1】 高等部の基本的な考え方と教育課程の編成

1、高等部のめざす教育

卒業後の社会の中で、生徒一人ひとりが自分の力や個性を発揮し、回りの人の関わりを持ちながら豊かな、充実した人生を歩んでほしい。そうした将来像をえがきながら高等部では、下記のように教育目標と指導の重点を設定して、日々の指導にあたっている。

教育目標

「自分の考えを持ち、活動の中に喜びを見だし、自分らしく生きようとする生徒」

指導の重点

○豊かな体験を通し、思いを広げ、一人でもチャレンジする力を育てる。

○人との関わりを通して、共に生きていく喜びを育てる。

○自分なりの充実感を感じる場面を多く設定することにより自尊感情を育てる。

このような目標設定の中で、働く力、社会生活をする力、つまり生活するための実践的な力を身につけることを期待する。その人なりの豊かな人生の実現のために、現在のいろいろな活動において、自分なりの考えのもとに意欲的に活動して欲しいと願っている。障害や発達段階が一人ひとり異なる生徒たちの、社会参加の姿はさまざまである。誰もが生活の主人公として、支援を積極的に受けることも含めた自立に向けて、力いっぱい生きていってほしいと考える。

2、研究テーマの基本的な考え方

以前の私たちの指導形態は、生活に必要な生きていく力をつけたいと願う余りに教師主導になりがちであった。そのため、これまでの高等部の生徒は、指示を待つて行動する傾向が強く、設定された学習場面以外のところでは、自分でやりたいことを見つけて自主的に取り組んだり、夢中で楽しいことに没頭したりするといった意欲的な姿はあまり見られなかった。

生徒は、自分の思いや考えが受け入れられ、興味があり、やりたい活動場面の中で自然に、学ぶ喜びや活動しきる充実感を味わうことができる。そして、その学習の積み重ねが、いろいろな活動に進んで取り組もうとする次への意欲を生み出すものと考えた。

また、生徒一人ひとりの思いや考えに寄り添い、実態に応じた学習を設定するために個別の指導計画にもとづく授業づくりを模索していくこととした。高等部の生徒は、自分の内面に問いかけ、社会に生きる自分を意識し、行動する段階に位置する。個々の人格を尊重しながら発達に応じた支援の方法を追求し、青年期の人格形成に資するとともに、生徒自身が生涯にわたる生活を、楽しく豊かなものにしていくという姿勢を育てたい。このように考えると「生活を楽しむ」という視点での実践は、高等部教育に大きな意義を持つものである。

3、教育課程

高等部では従来、将来の勤労生活を意識し、職業と生活一般を中心に据えた教育課程を編成してきた。「生活を楽しむ」という研究テーマを意図し、平成8年度より新しく選択学習の時間を設定するなど 週時程表を表-1のように組んでいる。

表-1 高等部週時程表

曜日	月	火	水	木	金	土	
8:50	日常生活の指導						生活的な学習の時間 下校
9:25	課題別トレーニング						
9:45	朝の会						
10:30	長休		ホームルーム	課題			
10:45	生活一般		長休	長休			
11:30			生活一般	生活一般			
12:10	給食						
12:40	休憩						
13:10	清掃		清掃		音楽		
13:15							
13:30		学芸会					
13:55	音楽		鳥居	選択	音楽		
14:15			日常生活の指導				
14:30	体育		下校	選択	体育		
14:55	日常生活の指導						
15:15	下校						

① 生活一般は教科・領域を統合した指導の形態で、体験学習、話し合い活動等を通し、生活者として課題解決の力をつけることをねらっている。校外での体験学習や、調理等の実習にじっくり取り組めるよう弾力的に時間を運用する。学年単位で指導するが、必要に応じてグルーピングを図り個別の指導も保障する。3年間を見通した指導内容の系統性も大切にしている。

② 職業科では基礎的な技能の習得とともに働く習慣や態度を育て、将来の職業生活に向けて働く力を高めることを目標にしている。コース選択、学習の目標設定、自己評価等、生徒の思いをできるだけ学習に生かし、主体的な取り組みとなるよう工夫している。この学習の応用発展として現場実習・校内職業実習も計画し、社会の中で自分の力を発揮する充実感を味わうとともに、自分自身の取り組みをいろいろな角度から見直し、新たな課題を発見する学習の場として大切にしている。

③ 選択学習は、生徒が自分の思いを生かして活動しきる喜びや、新しい技能を習得する充実感を得ることを意図して設定した学習の形態で、パソコン、スポーツ、手工芸、音楽の4コースを設けている。コース選択から学習計画の立案、製作、活動まで教師は生徒の思いにできるだけ寄り添い、学習活動を支援していく。この学習で得た喜びが生徒の特技や趣味に結びつき、将来の生活を、楽しく豊かにする手がかりになればという教師の願いも込められている。

④ ホームルーム・学部集会では、クラス・学部の仲間がお互いの存在を認め合い、協力しながら行事を計画・運営し、楽しい思い出づくりをする時間としている。教師は共に活動を楽しむ仲間として、また生徒たちより人生経験の豊かな先輩としてアドバイスしながら学習に参加している。

「生活を楽しむ子」を意識した指導は、教育課程全体でおこなってきた。以下その取り組みの経過を報告し、成果や課題を明確にして本研究のまとめとするとともに、今後の実践に生かしていきたい。
(出本和正)